

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：32101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520920

研究課題名(和文) 東南アジアの華人慈善団体に関する人類学的研究 潮州系のエスニシティとネットワーク

研究課題名(英文) An Anthropological Study of the Chinese Charitable Associations in Southeast Asia:
The Ethnicity and Networks of Chaozhou People

研究代表者

志賀 市子 (Shiga, Ichiko)

茨城キリスト教大学・文学部・教授

研究者番号：20295629

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、東南アジア地域における華人のサブ・エスニックグループの一つである「潮州人」のエスニシティがいかに形成、維持されてきたのかという問題について、現地社会において自他ともに「潮州人らしい」文化と見なされてきた「善堂」(慈善団体)の文化資源に焦点をあて、文化人類学と歴史学双方の方法と資料に基づいて考察するものである。調査対象地域はタイ、ベトナム、マレーシア、シンガポールを中心とし、香港、台湾も視野に入れ、「潮州人」というエスニック・カテゴリーやエスニック組織の出現過程、移民先の国や地域社会への同化によるエスニック文化の変容や新たな文化創出の状況について地域間比較を行った。

研究成果の概要(英文)：This research project is intended as an investigation into sub-ethnicities of the Chinese population in Southeast Asia, focusing on Chaozhou people (also known as Teochew), originating from the Chaozhou area of eastern Guangdong, China. Within this study we paid particular attention to the cultural resources of their charitable associations, known as shan tang ("halls for good deeds"), whose main activities are general relief work for the living and rituals for the dead, which originated from the cultural traditions of Chaozhou in Mainland China. We researched into a large number of shan tangs in Thailand, Vietnam, Malaysia and Singapore and considered the creation and maintenance of Chaozhou ethnicity, the assimilation into the host societies and the interethnic relationships with non-Chinese by the comparative study of several national contexts, based on the ethnographical data collected and by referring to historical documents.

研究分野：文化人類学

キーワード：華人 潮州人 エスニシティ 善堂 慈善団体 タイ ベトナム マレーシア・シンガポール

1. 研究開始当初の背景

近年の華僑華人に関する研究分野においては、華人であることの所以を華人の血や中国の文化的特性に求めるような本質論的な考え方に批判的な考え方が強まりつつある。多くの華僑華人に関する事例研究が示すように、たとえ中国からの移民の子孫であっても、現地の文化に同化し、非華人となっていく場合があることや、「華人」というアイデンティティを持つ人々も、彼ら自身が保有する文化資源の中から「華人性」を表象すると考える資源を取捨選択的に実践することによって、自ら選択して華人であろうとしていることが明らかになってきた。本研究課題はまずこうした近年の華僑華人研究の動向を踏まえ、東南アジア地域に散らばる華人のサブ・エスニックグループの中でも、その凝集性の高さや自己意識の強さ、また特有の風俗習慣などにおいて独特のプレゼンスを持つ「潮州人」のエスニシティに焦点をあてることにした。その際、とくに潮州人らしい文化と見なされる「善堂」(慈善団体)の文化資源に注目し、その特質や役割を明らかにすることを主要課題として掲げた。

第二に、これまでの潮州人を対象とした研究では、タイの潮州人、シンガポール、マレーシアの潮州人というように、一つの国や地域の潮州系華人の実態、それも潮州人の活動が顕著な地域の実態のみを通して潮州人を語る傾向があった。また、海外潮州人の活動を海洋民族的性格や進取の気風、団結心といった民族性に帰して語る本質主義な議論も少なくなかった。さらに潮州会館、潮州商会、善堂など、「潮州人」を語る際に必ず言及される「潮州人らしい」とされる文化資源についても、その規模や社会的影響力の度合いは、移民先の国や地域によってかなりの違いが見られることが予想された。そこで本研究課題では、東南アジア地域の国々の、それぞれ異なるコンテキストに置かれた「潮州人」及び「潮州文化」の地域間比較に重点を置くことにした。

2. 研究の目的

本研究課題では、潮州人のエスニシティは移民先の国や地域において、華人の置かれた政治・社会・経済的環境に応じて、また華人社会内部における他のエスニック集団との接触、競合、摩擦などを通して構築されたという前提に立ち、その構築プロセスには潮州善堂文化が少なからぬ作用を果たしたという仮説を提起する。本研究課題の第一の目的は、この仮説を文化人類学と歴史学双方の方法と資料に基づいて検証していくことである。

本研究課題の第二の目的は、複数の地域の「潮州人」及び「潮州文化」の地域間比較を行なうことで、華人のサブ・エスニシティ形成に作用する社会的条件や歴史的要因について考察を深めることである。本研究課題で

は、タイ、ベトナム、マレーシア、シンガポールを中心とし、香港、台湾も視野に入れ、「潮州人」というエスニック・カテゴリーやエスニック組織の出現過程、移民先の国や地域社会への同化によるエスニック文化の変容や新たな文化創出の状況について詳細な調査を行う。

第三の目的は、華人の慈善文化やそのネットワークのあり方について、また慈善文化とエスニシティとの相互作用が生み出す多様な様相について、潮州系善堂のホスト社会における位置づけや社会的機能を通して明らかにしていくことである。

3. 研究の方法

研究代表者及び分担者は、3年間の研究期間を通して、タイ、ベトナム、マレーシア、シンガポールを主な調査対象地域とし、香港、台湾も視野に入れ、潮州系の善堂(慈善団体)の活動事業、儀礼、メンバーシップなどに関する文化人類学的な共同調査及び個別調査を行った。3年目には潮州・汕頭地域の善堂文化に関する共同調査を行った。善堂に関する調査データは毎年1、2回行った研究報告会の場で共有し、考察を深めた。さらに、潮州人エスニシティの歴史的形成について理解を深めるために、各自の調査地域において、善堂の特刊、碑文、口述史、華字紙などの文献資料の収集を行った。

4. 研究成果

東アジアや東南アジア諸国において、現代まで持続的に維持されている「潮州人」エスニシティは、近代以降、とりわけ香港がイギリスの植民地となり、廈門、汕頭が条約港として開港された1842年以降、潮州系大商人のトランスナショナルなネットワークや各地域の華人社会を構成するサブ・エスニックグループ間の接触や摩擦を通して、歴史的、状況的に構築されてきた。その構築プロセスには、潮州系移民のルーツである広東省潮州地域の善堂文化が、少なからぬ作用を果たしてきたことが明らかになった。ここでは、その成果を4点に分けて概略する。

(1) 潮州善堂文化の特色

本研究課題ではまず潮州系移民のルーツである潮州地域の善堂文化の特色について検討した。潮州の善堂文化は、広東省潮州地域にルーツを持つさまざまな文化資源相互扶助の形態、儀礼文化(主に死者供養のための功德法事)、葬送習俗、庶民文芸(戯劇や音楽)などによって構成されている。とりわけ、孟蘭勝会、功德儀礼といった共同体及び個人を対象とした儀礼サービスと、施棺贈葬、収屍埋骨、修建義塚といった無縁死者の埋葬や供養に重点を置いている点に特徴がある。潮州善堂のこうした特色は、清代後期以降潮州の郷村社会に出現し始める地縁的な社会集団の性質 後に善堂、善会の母体となる と関わっており、大きく分けて以

下の3種類がある。

「施棺掩埋会」：施棺、収屍埋骨、修建義塚を主要業務とする善会。

「念仏社」：潮汕地域独特の在家仏教徒集団。死者の追善供養としての「功德法事」や「盂蘭勝会」の儀礼を執り行う「経師組」や潮州独特の民間音楽を演奏する「経楽組」としての機能を持つ。葬儀の互助結社の機能や掩埋会の機能も同時に備えている場合が多い。

「父母会」：葬儀や埋葬の費用や労働力をまかなうための相互扶助結社。

「茶社」：旅人に施茶を行う善会。施棺掩埋会の機能も併せ持つ。

(2)東南アジア華人社会における潮州善堂文化の位置づけ

本研究課題では、以上述べた潮州地域の善堂（善堂に準じる念仏社、掩埋会、父母会、茶社などの善会も含む）を構成する文化資源が、移民先の東南アジア社会においていかに維持されていったのかという連続性を見ると同時に、善堂の文化資源が移民先の社会に適應することによっていかに変化したのか、さらにはどのような新たな展開が見られるのかという3点に注目した。

その結果明らかになったことは、善堂の文化資源は、潮州人アイデンティティの強化や潮州文化の維持に寄与すると同時に、とくに儀礼文化（功德法事）、庶民文芸（戯劇や音楽）が示すように、その特色を対外的に示し、強調することによって、他の「広東人」や「客家人」などのサブ・エスニックグループと「潮州人」との差異を可視化するエスニックマーカーとして機能してきたという点である。

だが一方で、ベトナムやタイの事例に見られるように、善堂で行われる潮州系の儀礼や音楽が、潮州人以外の華人やタイ人にも浸透し、エスニックグループを越えた広がりを見せていることも、本研究を通して明らかとなった。以下、マレーシア・シンガポール、ベトナム、タイの状況について簡単に報告したい。

マレーシア・シンガポール

マレーシアとシンガポールの潮州系善堂が提供する葬儀サービスは、潮州楽器、潮州音楽と直接結びつき、潮州人のエスニシティを可視化させ、エスニック・アイデンティティを喚起する重要な装置となっている。国を越えて連携する善堂ネットワークの存在は、そうした状況を維持、強化することに成功している。本研究課題では、儀礼音楽、功德儀礼サービスの成立と展開、国境を越える善堂ネットワークに注目することで、潮州系華人がナショナリズムという国家の規制力とは別に、トランスナショナルに「潮州人」というカテゴリーの中身を主体的に作り上げてきたのが明らかとなった。

ベトナム

華人が集住するホーチミン市の潮州人の慈善活動については、近年復興著しい「会館」

組織の活動をまず考える必要がある。ホーチミン市内の華人集住地区であるチョロン（第5郡・第6郡を中心にした地域）では、広府人の「広肇会館」が天后を祀り、隣接する潮州人の「義安会館」は関帝を祀り、それらは「阿婆」「阿公」と並び称されている。慈善活動についても、広府人の「広肇善堂」と潮州人の「六邑善堂」は、19世紀以来ともに病院、葬儀場、共同墓地等を擁し、とくに潮州人の会館の慈善活動に「潮州系」としての特徴を見いだすことはむずかしい。だが本研究課題では、「会館」よりも規模の小さい潮州人の宗教結社を対象とすることで、潮州人宗教結社が潮州方言で儀礼を行うにもかかわらず、広府人やキン族にも葬式互助団体として受け入れられていることが明らかになった。例えば、チョロンの対岸にあたる第8郡にある可妙壇餘徳善堂は、広東省潮陽県から来た移民が、宋大峯祖師を祀る廟として1950年代に設立した新しい組織であるが、近年「施棺」（無料で棺を提供する慈善活動）を積極的に行い、ホーチミン市の北のピンズン省に共同墓地を設け、無料で埋葬するサービスも行っている。両親が亡くなった時に可妙壇のボランティアによる葬送儀礼のサービスを受ける「父母会」の制度もあり、会員のなかには潮州人のほか広府人やキン族も含まれている。

タイ

本研究課題では、バンコクの存心善堂や先行研究ではほとんど取り上げられていない「明聯」系の善堂と「保宮亭仏教会」の調査を実施した。両団体はともに潮州の在家仏教結社にルーツを持つタイ生まれの歴史の古い団体である。2013年3月と4月にはチョンブリー県の「明聯」系の善堂の「修[骨+古い]法会」（無縁死者の骨を回収し、供養する法会、タイの場合は火葬）の状況を調査することができた。近年タイでは、潮州系善堂の主催する活動として、各地で大規模な「修[骨+古]法会」が盛んに行なわれ、華人だけでなく、多くのタイ系市民が功德を積むために積極的に参加するようになっている。

「保宮亭仏教会」は、その系列から「儀礼サービス」に特化した組織が誕生し、宗教結社には参与しない技能職能者としてタイの若者を取り込んでいる点が注目される。儀礼が継承・発展するには「団体内外において儀礼が必要とされる場、それを請け負うだけの水準、メンバーの確保、質を維持するための後進の育成」という一定の条件が必要だと考えられるが、両団体はこれらの条件を満たしていると言える。

華人の同化が進み、エスニックグループ間の境界がますます曖昧となっているタイの事例が示すことは、潮州系善堂が、華人の靈魂観、功德観、慈善観のタイ人への一方的な押しつけでも、またタイ文化への全面的同化というわけでもなく、華人やタイ人というエスニック・アイデンティティを越えて、個々

人の靈魂観、功德観、慈善観に基づいたそれぞれの欲求に応えるサービスを提供する場となっているという点である。

潮州善堂文化がこのようにタイ社会と摩擦無く融合できた理由としては、現在は特にバンコクに限っていえば、4代遡ればどこかに必ず華人をルーツとする者が居るといわれる状況であるほど同化が進んでいることと、タイ社会（民衆理解の上座部仏教）が功德に重点を置き、輪廻転生という業の思想（他への行為は、自分に時間の早い遅いはあるものの必ず戻ってくる）という価値観を有しているためであると考えられる。すなわち、中国の功過格のように、徳のポイントがあり、そのポイントを貯めておかないと、徳の貯金が減ってしまい、現世での幸福が減ると考えられている。よって、自らの徳のポイントをプラスに保つために、タイ社会では、文字通り喜捨が行われている。

一方、潮州系華人の慈善精神とタイ社会の慈善精神の違いは、潮州系善堂を中心とする慈善活動が、人間（生者と死者）を主な対象としているのに対し、タイの慈善活動の主たる目的は、タイ社会、文化の中心であるサンガと呼ばれる上座部仏教の組織の維持にあるという点である。すなわち、慈善の対象が一旦寺院、僧侶といった媒体に対して行われ、そこから二次的に社会的弱者に再分配されているところに大きな違いがある。

(3)文献資料調査の成果

本研究課題では、華僑報徳善堂が設立した総合大学「華僑崇聖大学」の図書館を訪問し、デジタル化されたタイの戦前からの華字紙を閲覧することができた。タイの華字紙は、他地域で発行された華字紙に比べて整理が進んでおらず、収蔵図書館側の問題もあって、これまであまり利用されてこなかった。だが、このデジタルアーカイブはまだ正式には公開されていないものの、利用のしかたによっては、戦前から戦後のタイの華人史を跡付ける上で今後画期的な研究ツールとなるものと期待される。

(4)成果の国内外での位置づけ及び今後の展望

2014年11月30日早稲田大学で開催された日本華僑華人学会2014年度総会において、代表者、分担者、研究協力者の他、コメントータとして歴史学の専門家を1名加え、分科会「潮州人」エスニシティの形成と潮州善堂文化」を組織し、個別事例を含めた発表を行った。華人のサブ・エスニシティについての研究は、日本では「客家」に関するものが圧倒的に多く、「潮州人」に関する研究は少数である。また東南アジア地域の潮州系善堂に関しても、華僑華人研究の分野において一般的な理解はあるものの、複数の地域の「潮州人」及び「潮州文化」を民族誌的、歴史的資料から共時的、通時的にとらえ、地域間比較を行ったのは本研究が初めてといっても過言ではない。この他、現在タイの潮州系善

堂の儀礼や音楽が、エスニックグループを越えた広がりを見せていることも、この分科会において初めて明らかにされた。分科会の発表は、国内の華僑華人研究者におおむね高く評価された。今後は分科会での発表とその後のコメントや討論をふまえて各自論文を執筆し、最終的には論文集の出版を目指す予定である。

成果の国外への発信も各自行っている。たとえば志賀や芹澤は本研究課題で得られた資料をもとに、ベトナム、香港などで開かれた国際学会において英文、中文による発表を行った。とくに芹澤は、香港で開かれた華僑華人の国際学会の論文を集めた英文の論文集にベトナムでの研究成果をまとめた論文を発表している（主な発表論文等を参照）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

志賀 市子、十九世紀の嶺南地域における新しい道教コミュニティの生成 聖地、救劫論、ネットワーク、東方宗教、査読有、第124号、2014、pp.39 - 62

玉置 充子、タイの潮州系華人の葬送儀礼 上座部仏教国における適応と変容、拓殖大学海外事情研究所報告、第47号、査読無、2013、pp.107 116

玉置 充子、タイ華人の宗教実践の越境性 「林姑娘」信仰を事例として、拓殖大学海外事情研究所報告、査読無、第48号、2014、pp.87 95

〔学会発表〕(計 9 件)

志賀 市子、清末嶺南逐瘟疫與救劫經之普及、1894-1920年代：歴史鉅変中の香港」国際学術研究会、2014年12月5日、香港・饒宗頤文化館

志賀 市子、「潮州人」エスニシティの歴史的形成と潮州善堂文化、日本華僑華人学会2014年度大会分科会、2014年11月30日、早稲田大学

志賀 市子、潮州善堂の功德法事に関する初歩的考察、科研費基盤研究(B)「近代中国における民間宗教経巻資料の学際的研究」(代表者・慶応義塾大学・山下一夫、課題番号23320076)、2013年度国内研究集会、2014年1月12日、東海大学

芹澤 知広、ベトナムにおける潮州善堂文化の現在、日本華僑華人学会2014年度大会分科会、2014年11月30日、早稲田大学

Satohiro Serizawa, Chinese Religious Facilities in Chau Thanh County, Tra Vinh Province, International Workshop on the Religious Facilities of the ethnic Chinese

(Hoa) people in Tra Vinh Province, 2014年7月29日、ベトナム・チャビン大学(Tra Vinh University)

黄 蘊、マレーシアとシンガポールの潮州系善堂における葬儀(経楽)サービスとネットワーク、日本華僑華人学会 2014 年度大会分科会、2014年11月30日、早稲田大学

石高 真吾、タイに同化する潮州人文化慈善行為を通じての試論、日本華僑華人学会 2014 年度大会分科会、2014年11月30日、早稲田大学

玉置 充子、タイにおける華人と現地社会との融合 華人系慈善団体の活動から、拓殖大学海外事情研究所附属華僑研究センターシンポジウム、2013年10月5日、拓殖大学

玉置 充子、タイの潮州系華人団体における儀礼の継承と展開、日本華僑華人学会 2014 年度大会分科会、2014年11月30日、早稲田大学

〔図書〕(計 7 件)

志賀 市子、風響社、神と鬼の間 中国東南部における無縁死者の埋葬と祭祀、2012、324

志賀 市子、京都大学地域研究統合情報センター、功過格にみる中国の積徳行と善堂における実践、兼重努、林行夫編、功德の観念と積徳行の地域間比較研究(CIAS Discussion Paper No.33)、2013、pp.81 - 88

SERIZAWA, Satohiro, Singapore: World Scientific, Japanese Buddhism and Chinese Sub-ethnic Culture: Instances of a Chinese Buddhist Organization from Shantou to Vietnam, Tan Chee Beng (ed.) After Migration and Religious Affiliation: Religions, Chinese Identities and Transnational Networks, 2014、pp.311 - 327

黄 蘊、馬來西亞華人民間教派の発展：試論幾個不同之發展路向、田中仁・江沛・許育銘編、現代中国変動與東亞新格局 第1輯、中国社会科学文献出版社、2012、pp.82 - 94

黄 蘊編、京都大学学術出版会、往還する親密性と公共性 東南アジアの宗教・社会組織にみるアイデンティティと生存、2014、266

石高 真吾、慶応義塾大学出版会、タイ国ラノン県のミャンマー人移民、吉原和男編、現代における人の国際移動：アジアから日本へ、2013、pp.375 - 395

玉置 充子、明石書店、中国と東南アジアの華人社会 民間信仰と結びついた慈善団

体「善堂」、櫻井義秀・濱田陽編著、アジアの宗教とソーシャル・キャピタル、2012、pp.196 - 219

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

とくに無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

志賀 市子(SHIGA, Ichiko)

茨城キリスト教大学・文学部・教授

研究者番号：20295629

(2) 研究分担者

芹澤 知広(SERIZAWA, Satohiro)

奈良大学・社会学部・教授

研究者番号：60299162

黄 蘊(HUANG, Yun)

関西学院大学・付置研究所・講師

研究者番号：10387384

石高 真吾(ISHITAKA, Shingo)

大阪大学・学内共同利用施設等・その他

研究者番号：70511799

(3) 連携研究者

無し

(4) 研究協力者

玉置 充子(TAMAKI, Mitsuko)

拓殖大学・海外事情研究所